

科 目 名

教育方法論

Theory of Educational Methods

3年 後期 2単位 選択

柿 塚 純 男

概 要

戦後教育は、我が国の農業国から工業国への変換等、社会の構造的な変化の中で揺れ動いてきた。これまで、学校教育においては、知的レベルの向上に力を注ぎ、まさに知識中心、知的偏差値を追求する形で教育がなされ、また、評価もなされてきた。その継続性の中で、21世紀を迎え、グローバル化の時代に突入し、変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は「生きる力」であり、学校教育は生涯学習の基盤となるものであるという認識の下、今回の法改正や学習指導要領の改訂がなされた。教育改革は教師の意識改革であり、教育の成否は教師にかかっている。国民が求める学校教育を実現するためには、教師が、教師としての基本的な資質や専門性を身に付ける必要がある。本講座では、専門性の核となる教育方法について理解を図る。

目 標

生徒に学年相当の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用して課題を見だし、解決するための思考力（創造力）、判断力、表現力等、これら学校教育法の法令として定義された学力を保障するには、まずは、教師の教材開発、更に指導過程、教育評価等、教育方法がとても大事である。教育方法についての基本的な理解を図る。

授業計画

| テ ー マ | 内 容 |
|-------------------------|---|
| (1) 教員に必要な資質や能力 | ・「くまもとの教職員像」等から教員として身に付けるべき力を考える。 |
| (2) 教育の目的とこれまでの学習指導要領改訂 | ・戦後の学習指導要領改訂から教育方法の変遷について学ぶ。 |
| (3) 学習指導要領改訂の基本的な考え方 | ・今回の学習指導要領の基本的な考え方 |
| (4) 教科書とそれを越える教材開発 | ・教育課程の意義、編成 |
| (5) 指導計画及び学習指導案 | ・指導計画、学習指導案の作成に当たっての留意点 |
| (6) 指導過程と学習形態 | ・徹底指導（習得）と能動型学習（探究）とのめりはりをつけた授業の在り方 |
| (7) 研究指定校等の実践 | ・県内の先進的な取組から、子どもの興味・関心を高めるための指導法を学ぶ。 |
| (8) 新聞等を活用した授業（NIE） | ・新聞等の情報を活用した授業について体験する。 |
| (9) 教育評価① | ・県教委開発の「ゆうチャレンジ」「まいチャレンジ」から、授業改善の視点を学ぶ。 |
| (10) 教育評価② | ・指導と評価の一体化、評価の実際 |
| (11) 教材開発① | ・模擬授業に向けた教材開発 |
| (12) 教材開発② | ・学習指導案の作成 |
| (13) 模擬授業① | ・模擬授業の中で、教育方法のポイントについて確認する。 |
| (14) 模擬授業② | |
| (15) 定期試験 | |

授業方法

授業は、講義及び演習を中心に進める予定

学習到達度の評価

- (1) 適宜、小レポートを課し、学習の到達度を評価する。
- (2) 授業中のフェイス トウ フェイス、並びに、学びの姿勢で評価

評価方法

皆出席を前提に、授業中のレポート並びに試験で総合評価

教 材

参考書は負担にならない範囲で適宜紹介・購入出来る限りプリントを用意する。